

歴史遺産学科

教育目標（育成する人材像）

歴史遺産学科では、歴史的な観点から社会の諸問題に取り組むことのできる人格・教養知を「人間力」として身につけます。また、歴史遺産の調査・保存修復・活用実践的に取り組むカリキュラムを通じて、新たな社会的価値観を創り出す創造的知性を「創造力」として養います。卒業後は、文化財保存修復士や考古調査士をはじめ、伝統文化・地域文化産業で活躍できる人材、社会科教員・研究者となることを目指します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

■修得する能力

探求力	好奇心を養い、現地調査や資料の収集などを積極的に行って、それらの特徴を見極めようとする事ができる。
思考力	現地調査や収集した情報をフルに活用し、歴史遺産の普遍性や多様性・固有性などについて、自身の見解を導き出すことができる。
発想・構想力	既存の価値観を踏まえつつ、これに従属せず自由な発想によって新たな課題を洞察し、その解決に向けての計画を構築するとともに、必要に応じて的確に修正することができる。
表現力	伝えるべき内容を、論理的に構築された文章を中心に、図表、画像、映像等を交えて総合的に表現できる。
行動力	歴史遺産の保存・継承者としての自覚を持ち、他者との協同によって積極的に実践することができる。
継続力	自ら設定した課題や与えられた課題に対して、意欲を持続し、問題点を克服しつつ目標達成に至るまで行動し続けることができる。
コミュニケーション力	具体的な根拠を示しつつ、自身の見解を相手に的確に伝達するとともに、相違する見解に対しては適切な対話や議論をもって、相互理解を深めていくことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人類がこれまで作り上げてきた歴史遺産について、①専門分野だけでなく隣接する諸学問分野も含め広く体系的に学修します（知識）。そして、②それらの特質や価値を読み解き、また保存・修復するための技術を基礎から応用まで段階的に修得します（技術）。さらに、③修得した知識・技術を用い、社会において歴史遺産をどのように活用していくのが適切か、主体的に考え、活動するための力を実践を通じて養っていきます（総合：社会実装）。

■学修方法

- ・講義、フィールドワーク、実習、演習をバランスよく受講することにより、基本的な知識・技術・総合力を習得していきます。
- ・課題・グループワーク・ディスカッション等を通じ、自ら主体的に学修していくアクティブラーニングの姿勢を身につけます。
- ・各授業では、積極的な自学自習を習慣づけるために、予習課題や復習レポートをまとめます。
- ・学びの成果は、実際の社会でどのように生かされ、またこれから活かすことができるのでしょうか。実際のプロジェクトを積極的に講義・実習・演習のテーマに取り込むことで体験し、学び、考えます（社会実装）。

■学修過程

- 1 年次：様々な歴史遺産を扱うための基礎的な知識を身につけます（歴史遺産学概論Ⅰ・Ⅱ）。また、多くの歴史遺産に直接接し、それらの歴史遺産に関わる人々の営みに触れることから、歴史遺産の保存・継承について、社会との繋がりの中から考えます（フィールドワークⅠ・歴史遺産学基礎実習Ⅰ）。
- 2 年次：現存する歴史遺産が各地域の歴史においてどのように位置づけられるのか、といった点を中心としながら、歴史遺産に関わる発展的な知識を習得します（京都地誌Ⅰ・Ⅱ・日本史特論Ⅰ・Ⅱ）。また、歴史遺産の価値を読み解き、保存・修復するための、基本的な技術を身につけ、各自の専門性を深めていきます（歴史遺産学基礎実習Ⅱ・Ⅲ）。
- 3 年次：「歴史文化領域」「文化財保存修復領域」に分かれ、各専門分野の実践的実習を深めることから、これまでに得てきた知識・技術を社会に還元するための素地を育みます（歴史遺産学プロジェクト演習Ⅱ・Ⅲ）。また、自らの専門分野に関する先学の研究を整理し、独自の論点を発見することから、歴史遺産に対する自らの視角を定めていきます（歴史遺産学総合演習Ⅰ・Ⅱ）。
- 4 年次：独自の研究成果を論文にまとめることによって、歴史遺産を活用した新たな創造的価値観を生み出します（歴史遺産学総合演習Ⅲ）。また、研究成果の発信を通じ、自らの得た知識・技術をどのように社会に生かすことができるのかを真剣に考えます（卒業研究・制作）。